【資料4】

角田市の課題整理について

2026年3月17日

七十七リサーチ＆コンサルティング株式会社
調査研究部

角田市第６次長期総合計画基本構想における主要課題は以下のとおりです。

課題１ 市民が主役の地域資源を活用したまちづくり

本市の将来人口は、減少を避けられない局面にあります。人口が減る中でも、持続可能な、暮らしやすいまちをつくるために、何より重要なのは、市民と行政が協力して課題を解決することです。そのためには、地域で活躍する人材の育成が不可欠であり、地域資源をフル活用した持続可能なまちづくりの実現を目指す必要があります。

課題２ 安全・安心なまちづくりと気候変動への対応

大規模化する自然災害や新たな感染症の発生など、様々なリスクから市民の生命と財産を守り、安全に暮らせるまちづくりを進めるとともに、自助・共助・公助を着実に進めていくことにより、誰もが安心して生活できるまちづくりを進める必要があります。

また、地球温暖化や気候変動の影響による大規模自然災害が頻発しており、気候変動を前提とした対策を講じる必要があります。

課題３ 持続可能な地域医療体制の構築

近年の角田市や仙南地域における医療体制は、医療機関の連携・協力により維持されてきましたが、人口減少・少子高齢化等の影響により縮小傾向にあります。安心して生涯を健康で過ごせるまちづくり、子育てしやすいまちづくりを推進するため、角田市内及び仙南圏域における持続可能な医療体制を構築する必要があります。

課題４ 子育てしやすいまちを目指して

人口減少・少子化の傾向が顕著である本市において、人口減少や少子化の進行を鈍化させ、活気のあるまちづくりを進めるためには、「子育てしやすいまち」であることが重要です。本市の未来を担う社会の宝である子どもたちを育むため、家庭・地域・学校・行政が連携して、子育てしやすいまちづくりを推進することが必要となります。

課題５ 公共交通システムの存続と利便性向上

本市は、道路事情や公共交通システムにおいて、他団体と比較して、決して優位性が高い状況にはありません。その中において、阿武隈急行線の存続は本市へのアクセスにとって重要なポイントであり、本市での暮らしやすさを向上させるためには、既存の公共交通システムの利便性を高めることが必要となります。

課題６ 魅力的な産業の振興と地域経済の活性化

活力に満ちたまちづくりを実現するためには、働く場所の充実や、地域に根付いた魅力的な産業が発展し続けることが重要です。本市の基幹産業のひとつである農業について、改めて今後のビジョンを明確にするとともに、地域資源を活用した地域経済活性化を推進することが必要となります。

課題７ 市民生活の基盤となる安定した行財政運営の推進

本市の近年の財政状況を踏まえ、限られた経営資源を有効に活用して、社会の環境の変化に伴い多様化・複雑化する社会ニーズに対応するなど、将来にわたって持続可能な行財政経営を推進していく必要があります。

２．内部環境分析_角田市の強み、弱み

角田市の「強み」は豊かな自然、高い就業者の昼夜間比率などが挙げられ、「弱み」には人口減少の継続、３次産業の乏しさなどが挙げられます。

【強　み】

- 豊かな自然環境
  山林と農地の割合が市土の３分の２を占め、阿武隈川流域には肥沃な土壌が広がっている。
- 就業者の高い昼夜間比率
  就業者の昼夜間比率は１００％を超え、周辺自治体から多くの就業者が働きにきており、関係人口の創出につながっている。
- ２次産業の集積
  積極的な企業誘致により輸送機械を中心とした２次産業の集積が進み、域外からお金を稼ぐ産業となっている。
- 学術・研究機関集積の可能性
  JAXAの研究機関が市内に立地していることから、高い付加価値を生み出す学術・研究機関の集積が期待できる。
- 交流人口の拡大・維持
  R1に道の駅がオープンし、以降、交流人口が大きく増加、コロナ禍を経てもその水準を維持している。

【弱　み】

- 人口減少の継続
  将来人口の推計値は社人研推計で2070年には１万人を割り込む状況となっており、人口減少に歯止めがかかっていない。
- ３次産業の乏しさ（偏った産業構造）
  ２次産業の割合が極端に高い一方で、３次産業の集積が弱く、都市・産業機能の多くを近隣自治体に依存している。。
- 通学者の低い昼夜間比率
  通学者の昼夜間比率は１００％を大きく下回り、周辺自治体に多くの生徒や学生が学びに行っており、昼間の時間帯に若者が市内に滞留していない。
- 医師数の少なさ
  類似自治体と比較すると、人口１万人あたりの医師数が相対的に少ない。
- 鉄道駅周辺の賑わい不足
  角田市の中心駅である角田駅周辺は小売店舗、飲食店舗などの集積が進まず、賑わいが不足している。

３．外部環境分析_角田市の機会、脅威

外部環境分析から、「機会」にはデジタル田園都市構想などによる地方支援強化の動きなど、「脅威」には巨大災害リスクの深刻化などが挙げられます。

【機　会】

- デジタル田園都市構想、各種国家戦略による地方支援強化
  デジタル田園都市構想により、行政ＤＸ、地域サービス改善、５か年ＫＰＩ推進など、自治体ＤＸを国が支援することを定めている。
- 観光立国推進計画による地方誘客拡大
  国は、「持続可能な観光」「地方誘客」「消費額拡大」を重点政策として定め観光振興を推進しており、地域経済活性化の機会となる。
- SDGｓ推進と地方創生モデルづくりの進展
  ＳＤＧｓの普遍性は自治体施策と親和性が高く、国・県の評価や補助獲得にも有利に働く。
- ＤＸによる行政効率化・住民サービス向上
  ＡＩ、ＲＰＡ、ＩｏＴ、ビッグデータ、５Ｇなど、多様な技術の導入が可能であり、行政手続オンライン化、ＲＰＡでの事務効率化、防災カメラ、健康データ活用、観光分析などの実装が進展している。

【脅　威】

- 巨大災害リスクの深刻化
  水害の激甚化、巨大地震、津波、火山、雪害等のリスクが上昇している。
- 日本全体の低い経済成長
  国の中長期の経済成長率は0～1%台で低成長の見通しであり、税収の伸び悩みや公共投資の抑制等につながる恐れがある。
- 少子高齢化・人口減少の加速
  全国的な人口減少リスクが顕在化し、持家志向の低下、若年層の都市部志向が強まり、地域の担い手減少、税収減、コミュニティ力の低下などが懸念される。
- デジタル関連人材不足とデジタル基盤整備への対応
  ＩＣＴ人材やデータマネジメント人材の深刻化し、システム導入・維持費の増加、セキュリティリスク増も懸念される。

４．クロスＳＷＯＴ分析による課題の抽出

内部環境、外部環境の各分析を踏まえ、クロスＳＷＯＴ分析により課題を整理したところ、現行の主要課題と大きな相違はみられませんでした。

内部環境

【強　み（Ｓ）】

① 豊かな自然環境
② 就業者の高い昼夜間比率
③ ２次産業の集積
④ 学術・研究機関集積の可能性
⑤ 交流人口の拡大・維持

【弱　み（Ｗ）】

① 人口減少の継続
② ３次産業の乏しさ
③ 通学者の低い昼夜間比率
④ 医師数の少なさ
⑤ 鉄道駅周辺の賑わい不足

課　題

➢ **持続可能なまちづくりの実現**
人口減少が続く中、SDGｓの理念に基づき持続可能なまちづくりの実現を目指す必要がある。（弱み①で機会③を逃さない＝改善戦略）

➢ **助け合いの市民意識醸成**
激甚化する災害のリスクを回避するため、人口減少による地域コミュニティ力の低下を抑止し、助け合いの意識醸成を図る必要がある。（弱み①で脅威①を招かない＝撤退戦略）

➢ **持続可能な地域医療体制の構築**
医師数の少なさによる医療人材の地域偏在を回避するため、医療ＤＸの導入による効率化、健康支援の充実を図る必要がある。（弱み④で機会④を逃さない＝改善戦略）

➢ **優位性を活かした産業振興**
優位性の高い製造業の集積とＪＡＸＡを中心とした学術・研究機関集積の可能性を活かし、産業振興による地域経済の活性化を目指す必要がある。（強み③、④で脅威②を克服＝回避戦略）

➢ **地域資源を活用した観光振興**
国が目指す地方誘客拡大に向け、既存の観光資源を活用しつつ、新たな誘客に向けた取組を強化する必要がある。（強み⑤で機会②を生かす＝成長戦略）

外部環境

【機　会（Ｏ）】

① デジタル田園都市構想、各種国家戦略による地方支援強化
② 観光立国推進計画による地方誘客拡大
③ ＳＤＧｓ推進と地方創生モデルづくりの進展
④ ＤＸによる行政効率化・住民サービス向上

【脅　威（Ｔ）】

① 巨大災害リスクの深刻化
② 日本全体の低い経済成長
③ 少子高齢化・人口減少の加速
④ デジタル関連人材不足とデジタル基盤整備への対応